

完結すれば全十一巻よりなる予定の『東京芸術大学百年史』のうち、音楽学部に関係のある巻としては、すでに『東京音楽学校篇第一巻』、『演奏会篇第一巻』、『演奏会篇第二巻』が刊行されていますが、それらに続いて今回、『演奏会篇第三巻』が刊行できる運びになりました。

『演奏会篇第一巻』、『演奏会篇第二巻』では、明治二十年代にささやかに始められた当時の演奏会が、次第に規模が拡大され、内容が充実されていく過程が記述されていますが、今回の『演奏会篇第三巻』は、第二次世界大戦後、昭和二十四年から創立百周年までのほぼ四十年間における東京芸術大学音楽学部の演奏関係の記録、例えばオーケストラ(合唱)、吹奏楽、オペラ、室内楽、邦楽などの演奏会、卒業演奏会、メサイア慈善演奏会、創立百周年記念演奏会などが扱われています。この時期は日本が敗戦の痛手から立ち上がり、じよじよに国力を蓄えながら急速な繁栄を遂げた時期にもあたります。第一、二巻ではいわばわが国の西洋音楽受容史上の出来事、人物が扱われ、歴史書をひもとくような興味を覚えました。第三巻ではわれわれにより身近な時期の出来事が扱われているだけに、なつかしさを含めて様々な想いで本巻の内容に接せられる方も少なくないと思います。また純粹に記録として利用される方にも十分お役に立てるだけの内容と精度を具えていることを信じます。

最後になりましたが、本書の編集に多くの時間と労力を費やして下さった編集委員の方々、また出版に際して並々ならぬご助力をいただいた音楽之友社の浅香淳社長に心からの御礼を申し上げます。

平成五年九月

東京芸術大学音楽学部長 原 田 茂 生